

南方熊楠記念館



Minakata
Kumagusu
Museum



交通案内 ● JR白浜駅からタクシーで15分
白浜空港からタクシーで10分 ※駐車場あり
「臨海」バス停から徒歩8分
開館時間 ● 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
休館日 ● 毎週木曜日
6月28日～30日・12月29日～1月1日
※ただし7月20日～8月31日は無休

南方熊楠記念館の新館整備費用の一部は、ふるさと和歌山
応援寄附（ふるさと納税）により賄われました。

ふるさと和歌山
応援サイト



公益財団法人

南方熊楠記念館

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 3601-1（番所山）

TEL 0739-42-2872 FAX 0739-42-3055

<http://www.minakatakumagusu-kinenkan.jp/>

南方熊楠略年譜（1867～1941）

- 慶応3年（1867）0歳 4月15日(新暦5月18日)、和歌山城下に父南方弥兵衛、母すみの二男として生まれる。
- 明治8年（1875）8歳 この頃、はじめて『和漢三才図会』を手にする。
12歳の頃までに『和漢三才図会』『大和本草』『本草綱目』の筆写を本格的に行うようになったと考えられる。
- 明治16年（1883）16歳 和歌山中学校(現県立桐蔭高校)卒業。
- 明治17年（1884）17歳 東京大学予備門(現東大教養学部)に入学、同級生に夏目漱石、正岡子規ら。上野図書館で和漢洋の書物を読む。
この頃、アメリカで「6,000点の菌類標本」を採集した研究者の存在を知り、それを超越する収集を志す。
- 明治19年（1886）19歳 予備門を中退し、2月和歌山に帰郷。12月渡米。
- 明治20年（1887）20歳 1月サンフランシスコに到着、
8月ミシガン州ランシングへ移り、州立農学校へ入学。
- 明治21年（1888）21歳 11月同校退学、アナーバーに移る。
この頃より植物採集を本格的に始める。
- 明治22年（1889）22歳 「日本のゲスネル(有名な博物学者)とならん」と日記に記す。
- 明治24年（1891）24歳 フロリダ州へ移る。さらにキューバに渡り、植物採集をつづけ、
新種の地衣「ギアレクタ・クバーナ」を発見。
- 明治25年（1892）25歳 9月渡英、ロンドンに到着。
- 明治26年（1893）26歳 科学雑誌「ネイチャー」に天文学に関する論文を寄稿。
土宜法龍と出会い、親交は法龍の晩年まで続く。
- 明治28年（1895）28歳 大英博物館の図書閲覧を許可され、蔵書の筆写を開始、
筆写ノート「ロンドン拔書」は52冊に及ぶ。
- 明治30年（1897）30歳 大英博物館東洋学部長ダグラスの紹介で、
孫文と出会い、親交を結ぶ。
- 明治33年（1900）33歳 ロンドンより帰国、神戸に到着。弟常楠が出迎える。
- 明治34年（1901）34歳 孫文と再会を果たし、和歌浦の料亭で旧交を温める。
那智山周辺で生物調査と採集を行う。
- 明治37年（1904）37歳 10月那智より田辺へ移る。
- 明治39年（1906）39歳 闘雞神社宮司の娘、田村松枝と結婚。
- 明治40年（1907）40歳 「田辺拔書」を始める。全61冊におよぶ。長男熊弥生まれる。
- 明治42年（1909）42歳 神社合祀反対運動をはじめる。
- 明治44年（1911）44歳 柳田国男より来信、以後文通を重ねる。
この頃の論説で「ecology」という言葉を用いる。
松村任三宛書簡二通が、柳田により「南方二書」として刊行。
長女文枝生まれる。
- 大正5年（1916）49歳 田辺市中屋敷町に新居を得、以降終生住む。
- 大正10年（1921）54歳 1916年に自宅の柿の木で発見した粘菌をグリエルマ・リスターが
新属・新種「ミナカテルラ・ロンギフィラ」と命名。
南方植物研究所設立の募金のため、
日本郵船の矢吹義夫氏宛に
通称「履歴書」と呼ばれる長文の書簡を送る。
- 大正15年（1926）59歳 単行本「南方閑話」「南方随筆」「続南方随筆」を刊行。
- 昭和4年（1929）62歳 6月1日昭和天皇南紀行幸に際し、田辺湾神島に御案内。
御召艦長門にて御進講し、粘菌標本110点等を進献。
- 昭和5年（1930）63歳 行幸1周年を記念して、自詠自筆の和歌記念碑を神島に建立。
- 昭和10年（1935）68歳 神島が国の史跡名勝天然記念物に指定される。
- 昭和16年（1941）74歳 12月29日没。田辺市の高山寺に眠る。
(※年齢はその年の誕生日での満年齢を記載)